

区東北部 課題の整理

医療資源

☛ 中小病院が多い / ☛ 高度急性期～回復期:区中央部を中心に流出 / ☛ 慢性期:均衡型

<p>地域の特徴</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高度急性期～回復期機能流出 ○ 中小病院割合が高い ○ 病床稼働率が低い機能がある 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域包括ケア病床は少しずつ増えている ○ 中小病院割合が高い ○ 急変時対応を求める地域の診療所の声 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 独居高齢者の割合が高い ○ 退院後に在宅医療を必要とする患者の割合が高い ○ 退院調整部門を置いている割合が低い ○ 丁寧な退院調整を求める地域の診療所の声
<p>論点</p>	<p>病床稼働率を上げるために、今ある医療資源を最大限活用させるための方策</p>	<p>地域包括ケアシステムの構築に向け、高齢化する地域住民の入院医療体制</p>	<p>独居高齢者割合が高いことに加え、退院後に在宅医療を必要とする患者も多い。在宅に向けた退院調整への取組</p>
<p>調整会議での意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 区中央部や区西北部から戻ってくる際の後方病院としての役割を高めていけばよいと思う ・ 病床稼働率をよくするためには、急性期、回復期、慢性期の病床の連携がもっと推進されなければならぬ ・ 中小病院が多いため、<u>情報共有や連携が難しい。病院間の連携を深めていくための仕組みが必要である。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 誤嚥性肺炎などで治療後、在宅にすぐ移行できない患者の受入機能がない。<u>地域包括ケア病棟の機能をうまく使って、急性期、慢性期、在宅への流れを作る必要がある</u> ・ 高齢化が進む中で、入院医療を支えていくには、病院救急車を活用していくということが、一つの方法ではないか 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者を考えた時に、独居高齢者だけでなく、日中独居というのも大きな課題。回復期の病棟から退院にかけては、大きな問題である。 ・ MSWを配置したことで、患者がスムーズに流れるようになったことから、<u>在宅に向けては、MSWを置くことが大事である</u> ・ 人材確保の難しさが要因で、退院調整部門を置いている割合が低いのではないか ・ <u>施設に入所している方が、入院された後、なかなか施設に戻れないことが多く、退院調整を複雑化させている要因の一つである。</u>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 構想区域内の自治体ごとに、在宅に関するデータを集計し、それを構想区域全体で議論することが必要ではないか ・ <u>介護施設が多いため、他地域からの入所者も多いことから、こうした入所者に対する急性期のニーズは今後も高まる</u> 			

- ☛ 医療機関と介護施設間の退院調整に向けた連携を強化する取組が必要
- ☛ 中小病院間の顔の見える関係を構築し、情報共有・連携を強化する取組が必要
- ☛ 地域包括ケアを支える病床を効率的・効果的に活用していくための方策